慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	浅井了意自筆版下『密厳上人行伏記』について
Sub Title	
Author	石川, 透(Ishikawa, Toru)
Publisher	慶應義塾大学国文学研究室
Publication year	2012
Jtitle	三田國文 No.55 (2012. 6) ,p.72- 74
JaLC DOI	10.14991/002.20120600-0072
Abstract	
Notes	
Genre	Departmental Bulletin Paper
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00296083-20120600-0072

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

浅井了意自筆版下『密厳上人行状記』について

石川　透

一、はじめに

仮名草子最大の作家である浅井了意が、作家活動をするに当たって、自ら自作の版本の版下を書いていたことは古くから知られ、それを集大成したのが北条秀雄氏『改訂増補　浅井了意』（笠間書院、一九七二年三月）であった。その後、これを補う研究が進み、さらには、拙著『奈良絵本・絵巻の生成』（三弥井書店、二〇〇三年八月）等に記したように、『難波物語』という遊女評判記に分類されている作品も、同筆の版下であることがわかった。

本稿では、さらに、これまで指摘されていなかった浅井了意の自筆版下の資料について述べたい。

二、浅井了意の自筆版下

浅井了意の自筆資料については、前出の『奈良絵本・絵巻の生成』や、その後編である『奈良絵本・絵巻の展開』（三弥井書店、二〇〇九年五月）等に記し、さらには、近時、「浅井了意自筆資料研究の現在」を機関誌『水門』に投稿した。浅井了意資料の一覧については、そちらを御覧いただきたいが、版本の自筆版下のみを掲げると、以下のようになる。

『難波物語』　一巻　明暦元年刊
『三綱行実図（平仮名本）』　九冊
『因果物語（平仮名本）』　六巻
『やうきひ物語』　三巻
『可笑記評判』　十巻　万治三年刊
『浮世物語』　五巻
『かなめ石』　三巻
『東海道名所記』　六巻（巻四～六）
『江戸名所記』　七巻　寛文二年刊
『京雀』　七巻　寛文五年刊
『新撰御ひいながた』　一巻　寛文六年刊（序文のみ）
『密厳上人行状記』　二巻カ寛文一一年刊（序文のみ）
『鬼理至端破却論伝』　三巻
『勧進念仏集』　一巻　貞享五年跋
『父母恩重経和談抄』　六冊　元禄二年刊（序文のみ）
『狗張子』　七巻　元禄五年刊（巻一～六）

このうちの、『密厳上人行状記』が、今回紹介する作品である。浅井了意の自筆版下は、その多くが平仮名文の作品であって、片仮名や真名文の作品は、自筆版下は少ない。『密厳上人行状記』の本文は、片仮名漢字交じりであって、その筆跡は浅井了意ではない。しかし、その序文は、もちろん、印刷されたものだが、浅井了意の署名や印記が存在し、その筆跡は、浅井了意の特徴を備えている。

現在私の手元に、その上冊のみがあり、版本であるから、簡単にその所在が確かめられると思いきや、簡単に出てこないので、まだ不十分な状況ではあるが、いちおうの紹介をする次第である。

本書は、上冊が存在するのであるから、二冊本か三冊本であろうが、下冊を見ていないので、刊年までは特定できない。寛文十一年の序文があるのであるから、その年か、そうは離れない刊年であろう。

三、『密厳上人行状記』の書誌

ここで、『密厳上人行状記』の書誌を簡単に記す。

形態、袋綴、一冊（上のみ）
時代、［江戸前期］刊
寸法、縦二六・二糎、横一八・三糎
表紙、縹色
外題、欠
序題、大伝法院本願聖人行状記
内題、密厳上人行状記
料紙、楮紙
匡郭、縦一九・六糎、横一五・九糎
刊記、不明
分類、仏書

その筆跡と序の内容については、その全文を後掲する。了意自筆版下の他作品に見られる印記が押され、筆跡も了意のものである。

四、おわりに

ここで、重要なのは、これまで見出された上記の自筆版下の版本は、全て浅井了意が内容を記したものと考えられることである。その論理にしたがえば、『密厳上人行状記』も、浅井了意の著作物ということになる。確かに、内容からすれば、密厳上人、すなわち、覚鑁（一〇九五～一一四三年）のことであるから、浅井了意がその伝記を集成してもおかしくないことである。

浅井了意の著作活動は、今日一般の著作活動とは違い、既にあるものを編集し直す、という面が強い。この本もそのような著作の一つと思われるが、内容については、より細かな調べが必要である。

ともかくも、本書を紹介することによって、残りの下冊（あるいは中下冊）が出現することを期待したい。

なお、最後に、浅井了意の自筆版下である、『密厳上人行状記』の序文の全文を写真で掲出する。

大傳法院本願聖人行狀記

叙曰惟夫秘密金剛乘教ハ三世諸佛窮理ノ實體十方薩埵盡性ノ妙道ナリ是ヲ以テ九種ノ住心ハ施化ノ善巧三箇ノ菩提ハ解脫ノ根柱タリ蓋本有遮那ノ光耀ハ般若智ノ月ヲ飛ニ映シ加持護念ノ寶香ハ觀行空ノ朱壇ニ薰ス南天ノ源流遠ク灑テ東域ノ勝境咸霑ノ白馬嘶風肩龍吟雲聲已ニ金剛峯ニ傳リシヨリ以來ハ真言上乘ノ大教此率土盈利生化益ノ明燈云ニ四海ヲ照ス飛水瀉ノ霞直ニ大傳法院ノ本願聖人ニ至ル讓摩灌頂ノ秘奥ヲ極メ惣持印明ノ正統ヲ受ケ群黨二世悉地ヲ致シ一切ニ有ノ繫縛ヲ脫ス鎮護國家法將タリ除災與樂ノ依怙タリ尊卑此ノ益ヲ蒙リ遠近彼ノ德ニ帰ス信ニ知リヌ前佛ノ陳唱ハ已ニ過ル此五時ノ說相ハ常ニ鷲嶺尊ノ出世ニ是遥ニ此三會ノ儀則ハ亦新タリ佛子遇値ノ緣ニ隨テ其昔ヲ顧ル在世ノ行狀隔聽今ハ數百餘歲事實幽隱ノ人普ノ知ルト稀也因茲且ヲ愛機ノ契拾ノ記ノ十卷ト為御ノ編ノ目聞ニ備ヘ齊ク起信ノ樑基ニ擬ス度幾ハ斯ノ良因ニ依テ願逆二ノ緣倶ニ覺路ニ赴キ乎凡聖兩等同ク菩提ヲ證セント云尔

維時寛文十一年辛亥五月中澣

洛下　本性寺　照儀坊　釋了意　謹誌